

17)

著者：重松宏昭，小森弘詞，松永勝也

論文題目：初心運転者講習受講者にみられる違反項目と事故の傾向

論文集名：日本交通心理士会第5回中国・四国・九州地区研究発表会発表論文集

発表年月：2013（平成25）年7月

頁：1-3

初心運転者講習受講者にみられる 違反項目と事故の傾向

○重松宏昭・小森弘詞・松永勝也
(アイルモータースクール)

1. 背景

私たち指定自動車教習所では初心運転者教育に従事し、安全運転者の育成を行っている。免許取得後も初心運転者に対する事故防止活動を行っている。しかし、違反や交通事故を繰り返し初心運転者講習に来校する初心運転者も少なくなっているのが現状である。

また、警察庁交通局の統計によると平成24年中、原付以上の運転者（第一当事者）による運転免許保有者10万人当たりでは若者の運転による事故が最多であった。交通事故件数を年齢層別にみると若者16～24（1,544.3件）が最も多く、次いで25～29歳（983.9件）、高齢者（724.8件）の順となっている。若者の運転による事故は死亡事故でも最多である。[1]

初心運転者講習とは、運転免許証を取得して1年以内に3点以上（1回の違反で3点の場合は、再び違反などをして合計点数が4点以上になった場合）の交通違反、交通事故を起こして公安委員会から初心運転者講習通知を受けた人が受講しなければならない講習のことで、公安委員会から初心運転者講習通知書を受けた後、1ヶ月以内に受講しなければならないことになっている。

今回は、違反回数1回の者ではなく、2回以上の複数回違反を繰り返す初心運転者の違反項目と事故形態を調査してみた。

2. 方法

2009年1月～2013年6月末までにアイルモータースクール豊前、アイルモータースクール門司で初心運転者講習を実施した該当者519名（普通車・自動二輪車・原付）を対象に違反名、事故形態をアンケート用紙に記入してもらい調査を行った。

3. 結果

表1は普通車の初心運転者講習該当者の違反別内訳で調査対象者は合計381名（553件）であった。最も多かった違反は、最高速度違反153件（27.7%）であり、シートベルト着用義務違反127件（23.0%）、それに一時停止違反86件（15.6%）、信号無視62件（11.2%）が続いている。

年齢別にみると18～19歳の該当者が最も多く280名（392件）、次いで20～24歳が69名（110件）、25～29歳が11名（19件）となっている。18～19歳の該当者の中で最も多い違反が最高速度違反110件（25.5%）、次いでシートベルト着用義務違反86件（21.9%）、一時停止違反68件（17.3%）、となっている。

20～24歳では、多い違反順で最高速度違反29件（26.4%）、シートベルト着用義務違反28件（25.5%）、一時停止違反17件（15.5%）となっている。

25～29歳では、最高速度違反、シートベルト着用義務違反がそれぞれ5件（26.3%）で最も多かった。30～34歳ではシートベルト着用義務違反が4件（26.7%）、最高速度違反、信号無視ともに3件（20.0%）となっていた。

表2は自動二輪車の初心運転者講習該当者であり、調査対象者は101名（135件）であった。多い違反順で最高速度違反49件（36.3%）、二人乗り禁止違反26件（19.3%）、一時停止違反15件（11.1%）であった。年齢別では16～19歳が最も多く48名（86件）、次いで20～24歳の25名（19件）となっている。

16～19歳で最も多い違反が、二人乗り禁止違反で25件（29.1%）、次いで一時不停止、整備不良がそれぞれ13件（15.1%）であった。

20 歳以上ではどの年代も最高速度違反が違反上位をしめていた。

表 4 は初心運転者講習該当者の普通車での事故形態を示したもので、追突事故が最も多く 58 件 (51.3%) であった。

4. 考察

これらのことから普通車の初心運転者は運転を続ける中で、運転操作が素早くできるようになるにしたがい、先急ぎ衝動に基づきより高い速度での走行、出来るだけ止まらない運転を指向・実行するようになり、またシートベルトを着用する前に発進するような運転になっているとも考えられる。特に若年層は先急ぎ傾向が強く、前車との車間距離（車間時間）が走行速度よりも小さくなるため追突事故が多く発生していると考ええる。

また、警察庁と日本自動車連盟（JAF）のシートベルト着用状況全国調査 2012 年では、一般道路での運転席のベルト着用率が 97.7%、助手席で 93.2%。高速道路では運転席で 99.5%、助手席で

97.7%と、年々シートベルトの着用率が上昇傾向若年層を中心に多いことが示されている[2]

このことも、若年初心運転者にシートベルト非着用違反者が多いことと関係しているとも考えられる。

自動二輪では車両重量が軽く速度を出しやすく、高い速度での走行を指向し、他の車両よりも早く走りたいといった先急ぎ傾向が強く働くようになるために多く発生していると考ええる。

初心運転者の違反や事故をより少なくするには、今まで以上に先急ぎ運転は得ではないことを理解させ、また安全車間時間についての教育に力を入れていく必要があると考ええる。

また、若者がなぜ速度を出したいのか、シートベルトを着用しないのか等のアンケートを初心運転者講習時に実施し、対策をたてることが今後の課題となると考えている。

表 1. 初心運転者講習（違反別）普通車

年 齢	18～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50 以上	合 計
人 数(名)	280	69	11	7	4	4	1	5	381
最高速度	110	29	5	3	1	0	5	0	153
一時不停止	68	17	0	0	0	0	0	1	86
進入禁止	17	6	0	0	0	0	0	0	23
信号無視	43	10	3	3	0	3	0	0	62
シートベルト	86	28	5	4	0	0	0	4	127
右折禁止	7	1	0	0	0	0	0	0	8
整備不良	7	2	1	1	0	0	0	0	11
駐車禁止	5	2	1	0	0	0	0	0	8
無灯火	0	0	1	0	0	0	0	0	1
初心者マーク	29	10	1	2	0	0	0	0	42
酒気帯び	0	0	0	1	0	0	0	1	2
チャイルドシート	1	1	1	0	0	0	0	0	3
通行区分	3	0	0	0	0	0	0	0	3
指定方向外	2	0	0	0	0	0	0	0	2
安全義務違反	1	1	0	0	0	0	0	0	2
携帯電話	10	3	1	1	1	0	1	0	17
追い越し違反	1	0	0	0	0	0	0	0	1
時間帯	1	0	0	0	0	0	0	0	1
無保険車	1	0	0	0	0	0	0	0	1
小 計	392	110	19	15	2	3	6	6	553

表 2. 初心運転者講習（違反別）自動二輪車

年 齢	16～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50 以上	合 計
人 数(名)	48	25	6	7	4	6	3	2	101
最高速度	10	15	4	6	4	4	4	2	49
一時停止	13	1	0	0	1	0	0	0	15
二人乗り	25	1	0	0	0	0	0	0	26
ヘルメット	5	0	0	0	0	0	0	0	5
進入禁止	2	0	0	0	0	0	0	0	2
信号無視	6	0	0	0	0	0	0	0	6
右折禁止	6	0	1	0	0	0	0	0	7
整備不良	13	0	0	0	0	0	0	0	13
免許不携帯	1	0	0	0	0	0	0	0	1
駐車違反	0	1	1	0	0	0	0	0	2
通行区分	2	1	1	0	0	0	0	0	4
携帯電話	0	0	0	0	0	0	1	0	1
乗車積載	4	0	0	0	0	0	0	0	4
右側通行	2	0	0	0	0	0	0	0	2
追越し違反	1	0	0	1	0	0	0	0	2
小 計	86	19	7	7	5	4	5	2	135

表 3. 初心運転者講習（事故別）普通車

	18～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50以上	合 計
追突	46	6	4	0	0	0	0	2	58
出会い頭	7	2	1	1	0	0	0	0	11
右直	1	0	0	2	0	0	0	0	3
正面衝突	1	1	0	3	0	0	0	0	5
物損	2	0	0	4	0	0	0	0	6
人身	33	6	0	1	0	0	0	1	41
後退	1	0	0	0	0	0	0	0	1
小 計	89	15	5	7	0	0	0	3	119

- [1] 警察庁交通局：統計安全・快適な交通の確保
に関する統計等

<http://www.npa.go.jp/toukei/index.htm>

2013年6月26日検索

- [2] 警察庁／日本自動車連盟（JAF）：シートベルト着用状況全国調査 2012年

<http://www.jaf.or.jp/eco-safety/safety/data/pdf/sb2012.pdf>

2013年7月1日検索